



としょかんだより

2025年10月号

編集・発行

天童市立図書館

Vol.81

📖 今月の催し物・お知らせ



リノベーション工事に伴う完全休館のお知らせ

10月1日(水)～31日(金)の期間は、資料移動作業のため図書館を完全休館いたします。休館中の貸出はできませんが、返却については、図書館入口脇にある24時間開放の返却ポストへお願いいたします。

また、リクエストの受付や県立図書館資料貸出の受取については、休館中の窓口は設けませんので、ご利用できません。

ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

※11月1日(土)以降は、天童ターミナルビル「パルテ」1階に仮設図書館を開設予定です。

住所等変更予定ですので、11月号のとしょかんだよりで改めてお知らせいたします。

～今後の「としょかんだより」について～

リノベーション工事中の「としょかんだより」は、縮小版になります。また、歴史相談室の先生方による「歴相コラム」は、今月号をもちましてお休みとなります。楽しみにしてくださった皆様には申し訳ありませんが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

リノベーション等の情報につきましては今後も随時掲載していきますので、よろしくお祈りいたします。

10月



11月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------------|----|----|----|----|----|-----|
| 🎃 10月 🍁 🍂 | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 資料移動作業のため 完全休館 | | | | | | |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 🍁 🍂 |

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------------------|-----|----|----|----|----|----|
| 🍎 11月 🍎 🍎 🍎 🍎 🍎 🍎 🍎 | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| | 休館日 | | | | | |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

🚐 移動図書館巡回日 🍁 初めて知る天童の歴史講座 📖 おはなしの会 📖

天童市立図書館【(公財)天童市文化・スポーツ振興事業団】

住所:天童市老野森一丁目2-1

TEL:023-654-2440/FAX:023-654-2990

H P:https://tendocity-library.jp/ ※携帯電話でも利用可能

開館時間:9:00～19:00

※10月は開館していません。

※返却の方は、入口左側の返却ポストをご利用ください。



一般書

| | | |
|---|--------------------------|---------|
| 1 | 月下のサクラ | 袖月 裕子／著 |
| 2 | 架空犯 | 東野 圭吾／著 |
| 3 | 彼女の家計簿 | 原田 ひ香／著 |
| 4 | 喫茶おじさん | 原田 ひ香／著 |
| 5 | 逃亡者は北へ向かう | 袖月 裕子／著 |
| 6 | 幾世の鈴 (あきない世傳金と銀 特別巻下) | 高田 郁／著 |
| 7 | 医師が認めた！究極のきくち体操 | 菊池 和子／著 |
| 8 | 伊勢志摩'24 (まっふるマガジン) | 昭文社 |

児童書

| | | |
|---|--------------------------------|----------------|
| 1 | ゴミの島のサバイバル | ゴムドリco./文 |
| 2 | 今川義元 (コミック版日本の歴史 57) | 加来 耕三/企画・構成・監修 |
| 3 | 介護の花子さん | あさば みゆき/著 |
| 4 | 仮面ライダー全戦士超ファイル (1971-2022) | 小学館 |
| 5 | 下水道のサバイバル 2 | ポドアルチング/文 |
| 6 | しずくちゃん 17 (がっこうはオバケがいっぱい！) | きぼ りつこ/作・絵 |
| 7 | しずくちゃん 18 (しずくの森のスーパーヒーロー) | きぼ りつこ/作・絵 |
| 8 | しずくちゃん 31 (マジカル★ハロウィンパーティー) | きぼ りつこ/作・絵 |



歴相コラム Vol. 104 「歴史相談室の研究」

明治期の殖産興業と天童の「東郡社」

江戸時代が終わり、日本が近代化を迎えた明治新政府にとっては、財源確保が緊急の課題であった。万延元年(1860)横浜開港時、これまで盛んだったヨーロッパの製糸業が蚕種の微粒子病に罹患し絶滅の危機に瀕していた。その情報をチャンスととらえた新政府は、蚕種・製糸業の輸出に本腰を入れることになった。早速、明治5年(1872)群馬県富岡に国営の模範製糸工場を創設し、フランスから技師や女工の教師を招聘(しょうへい)して操業を始めた。山形県で養蚕が盛んだったのは上杉鷹山が奨励した置賜地域が最初であるが、他の地域は、明治9年(1876)8月、三嶋通庸(みしまみちつね)が山形県令になってからである。彼は早速、山形に器械製糸を取り入れ女工を募集し模範工場を造った。その頃から、天童では寺津村の大木勘十郎、蔵増村の後藤貞次郎、干布村の今野有石等も生糸づくりに挑戦している。なかでも天童五日町の佐藤正二郎は、東村山地域の良質の繭の産出に着目し、多くの女工を雇い、視察による技術を生かし蒸気による繰糸器を導入し製糸を始めた。やがて「東郡社」の製品は、横浜の輸出商社の三井から一手約定を得るほど優れた糸となり、羽前エキストラ(出羽の優良糸)と呼ばれるまでになったのである。明治期から大正期にかけて日本の近代化を進めた工場制手工業(マニファクチャー)の典型が天童にもあったのである。それを支えた養蚕業の桑畑は現在、市内では全く見ることができなくなった。



工場全景



繰糸器を使用する女工たち(佐藤氏提供「写真アルバムより」)



工場の女工たち